

「自助・共助・公助について考えよう」
授業展開案（50分）

1. 学習のねらい

- 自助、共助、公助の考え方について理解する。
- 社会保障制度と自助（預貯金・民間保険）について、特徴や保障などを理解する。
- 社会保障制度を持続可能なものにするために、自助・共助・公助の適切な組み合わせについて考える。

2. 授業の概要（50分）

概要	学習内容とねらい
導入 (10分)	1. 少子高齢化について考えよう ★少子高齢化の現状を把握する
展開① (10分)	2. 社会保障制度について ★自助・共助・公助の考え方について理解する ★社会保障制度（社会保険）について学ぶ
展開② (10分)	3. 自助って何？ ★自助の代表的な手段である預貯金と民間保険について、そのしくみと特徴を理解する
グループ ワーク (15分)	4. 自助・共助・公助について考えよう ★学んだ内容を振り返り、持続可能な社会保障制度を維持するためには、「自助・共助・公助」のどれが一番大切だと思うか、自分の考えをまとめる
まとめ (5分)	5. まとめ ★授業のふりかえりをする

3. 授業形式

- パワーポイントと生徒用ワークシートを用いた講義形式

4. 準備物

- 生徒用ワークシート（WS）
- パソコン（パワーポイントが使える環境のもの）
- プロジェクター
- スクリーン
- 筆記用具（生徒）

【図記号の説明】

○：スライドタイトル 【WS】 ワークシート掲載

★：ポイント ★★★：重要ポイント (Q)：発問

5. 授業展開（詳細）

時間	内容	備考	スライド
導入 10分	<p>1. 少子高齢化について考えよう</p> <p>○日本の高齢化率は何%？</p> <p>★クイズ形式で今の日本の高齢化率を確認する</p> <p>★高齢化社会、高齢社会、超高齢社会の定義を紹介する</p> <p>○日本の少子高齢化の現状</p> <p>★グラフで少子高齢化の状況、今後の推計を認識させる</p> <p>○高齢化について考えよう</p> <p>★生徒が高齢者になったときをイメージさせる</p> <p>○平均寿命</p> <p>★日本の平均寿命を紹介する</p> <p>○人生におけるリスク</p> <p>★★★老後の生活費や介護の問題等の高齢化に伴うリスクだけではなく、亡くなり、病気やケガをしたり、交通事故にあったり、勤め先が倒産する等、人生には様々なリスクがあることを伝える</p>	<p>・2018年までが実績値 2020年以降は推計値</p> <p>(Q) 何歳まで元気でいたいか、何歳まで働きたいか問いかける</p> <p>・2017年の平均寿命と健康寿命の差は男性 8.84 年（平均寿命 80.98 歳）、女性 12.35 年（平均寿命 87.14 歳）</p> <p>・昔に比べて平均寿命が延びており、老後の生活費の準備や介護といった問題等が生じる可能性が高くなってきていることを伝える</p> <p>・次章の自助・共助・公助の説明への展開として、人生におけるリスクに備える考え方として、「自助・共助・公助」があることを伝える</p>	

展開①
10分

2.社会保障制度について

○リスクに備える【WS】穴埋め

★★★リスクに備えるための考え方として、
「自助、共助、公助」があることを伝える

○「社会保障制度」とは【WS】

★社会保障制度には 4 つの柱があることを理解させる

○「共助」と「公助」の財源の違い【WS】穴埋め

★「共助」は労働者等から集める「社会保険料」
「公助」は国民から集める「租税」で運営されている違いについて認識させる

○社会保障給付額の推移

★社会保障制度の給付額が年々高額になっていることを確認する。

★★★少子高齢化が進む中で社会保障の給付額が増えていく実態を確認し、持続可能な社会保障制度のあり方について考えていくことが大切であることを伝える

○社会保険の概要

★社会保険の内容について簡単に説明する

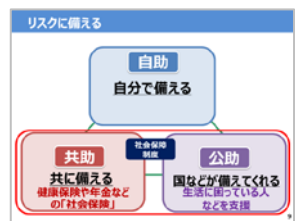
・次のスライドへの展開として、社会保険は「共助」、その他3つは「公助」に該当することも伝える

・「共助」は一部租税でも賄われている

※例：国民年金は 1/2 が国庫（租税）負担

・給付額の多くは社会保険に係る費用であることに触れ、次スライドで社会保険について説明を行うことを伝える

・詳細な説明は避け、社会保険から様々な保障を受けられることを伝えられればよい



社会保障制度	内容
社会保険	病気・老後・介護・失業などの場合に国などが一定の給付を行う制度（国民年金保険、労災保険、公的介護保険、公的介護保険等）
社会福祉	障がい者や母子・父子家庭などに対して公的な支援を行う制度（児童福祉、高齢者福祉、母子福祉等）
公的扶助	生活に困窮する国民に対して最低限の生活を保障し、自立を助けようとする制度（生活保護等）
公衆衛生	国民が健康に生活できるよう様々な事項についての予防、衛生のための制度（予防接種等）

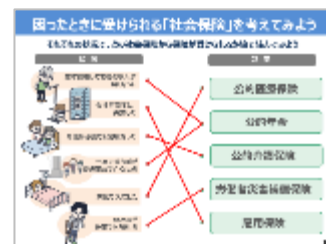


制度	主な保障の内容
1. 公的医療保険	病気やケガにかかった治療費
2. 公的年金保険	老後の生活資金など
3. 公的介護保険	介護サービス費用（訪問介護など）
4. 労働者災害補償保険	仕事中のケガ等の治療費
5. 雇用保険	失業時の生活費

○困ったときに受けられる公的保障を考えてみよう

※グループで考えてもよい

★それぞれの状況で、どの社会保険から保障が受けられるか具体的に理解する



展開②
10分

3.自助って何？

○3. 自助って何？

○リスクに備える(再掲)

★自助の代表的なものに預貯金と民間保険があることを確認する

○自助が必要な事例（骨折の場合）

○自助が必要な場合（亡くなった場合）

★けがをした場合や亡くなってしまった場合にどのように「自助」が必要になるのか、事例と金額を提示し紹介する

○預貯金と民間保険①

○預貯金と民間保険②

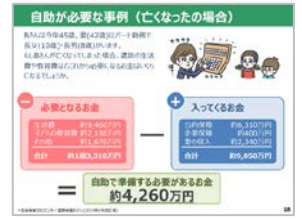
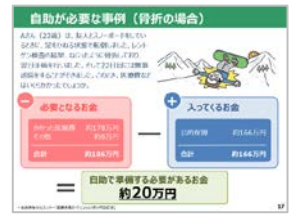
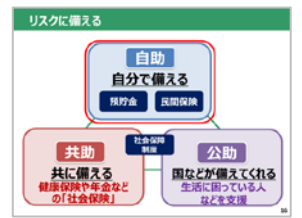
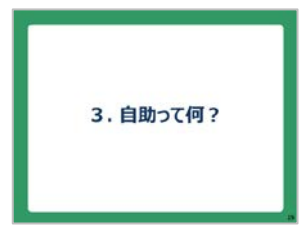
○預貯金と民間保険③

★預貯金と民間保険の性質の違い、それぞれのメリット、デメリットについて説明する

★★★預貯金と民間保険どちらがよいか、ではなくそれぞれの特徴を押さえた使い分けが大事であることを認識させる

(Q) 自助の説明に入る前に、自助にはどういったものがあるか、生徒に問いかける

・民間保険とは、保険会社に保険料を支払うことで、リスクが起きたときに保険金を受け取ることができる「契約」であることを伝える



	預貯金	民間保険
メリット	貯めたお金は自由に使うことができる 途中で引き出しや貯蓄のペースが自由 預けた金額に応じて利子がつく	途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合に、あらかじめ決められた金額を受け取ることができる
デメリット	途中で病気やケガ等、リスクが発生した場合、必要な金額が貯まっているとは限らない	決められた金額を保険料として支払う必要がある(保険の種類によっては一部戻ってくる場合がある)

○保険のしくみ①②

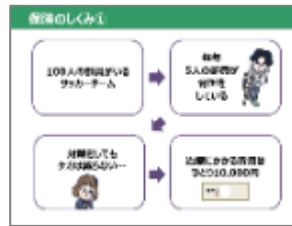
★保険のしくみについて単純化した例で説明する

<ストーリー・スクリプト>

- ・100人の部員がいるサッカーチームがある
- ・毎年5人の部員が骨折すると仮定する
- ・対策をしてもケガは減らない
- ・治療には費用がひとり1万円かかる

(次スライド)

- ・そこである部員が思いついた「全員であらかじめ治療にかかる費用を準備しておけばよいのでは」
- ・治療に係る費用はチーム全体で1万円×5人=5万円
- ・5万円を100人で準備すればよいので、5万円÷100人=ひとり年間500円
- ・骨折した生徒は1万円を受け取り、治療費にあてることができる

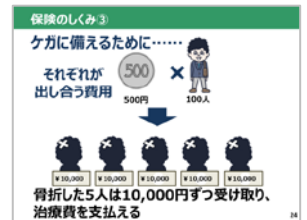


○保険のしくみ③

★単純化した例を、一つの図で示し、理解を深める

○生命保険と損害保険

★民間保険には、生命保険と損害保険があり、保険をかける対象が違うことを説明する



	生命保険	損害保険
対象	人	モノ
受取額	あらかじめ約束した金額 (定額給付)	事故により発生した損害額 (実損填補)
補償されるリスク	●死亡 ●病気・ケガ ●老後 ●介護 など	●交通事故 ●火事 ●台風や地震 など

グループワーク
15分

4. 自助・共助・公助について考えよう

○考えてみよう【WS】穴埋め

★★★持続可能な社会保障制度を考えていくうえで、「自助・共助・公助」のどれが大切か、考えをまとめる。

【参考】自助・共助・公助の考え方

★「自助」「共助」「公助」それぞれを大切だと思う人の意見を例示

(Q) ペア、グループで意見交換を行い、様々な考え方に触れる

考えてみよう

社会保障制度を持続可能なものにするためには、「自助」「共助」「公助」がどのように組み合わせられるべきか。今後の社会において「自助」「共助」「公助」のどれが一番大切だと思うかあなたの考えをまとめてみましょう。

・一番大切だと思うもの()に○をいれよう。
「自助」or「共助」or「公助」

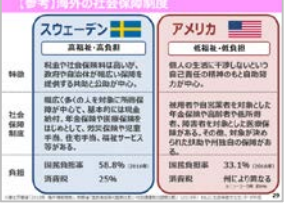
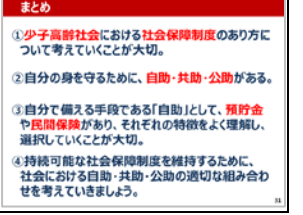
・そう考える理由は...

【参考】自助・共助・公助の考え方

Aさん (「自助」重視型)
老後に充実した生活を送るためには、「共助」や「公助」ばかりに頼らず、「自助」に重点を置いた方がよいよね。

Bさん (「共助」重視型)
社会保障料が高くなっていいから、公的年金等の「共助」を充実させた方がよいよね。

Cさん (「公助」重視型)
老後に最低限の生活は保障されていて欲しいから、租税(税金)が高くなって「公助」を充実させた方がよいよね。

	<p>【参考】海外の社会保障制度</p> <p>★高福祉高負担の事例としてスウェーデン、低福祉低負担の事例としてアメリカを取り上げ、社会保障制度について記載</p>		
<p>まとめ 5分</p>	<p>5.まとめ</p> <p>○まとめ【WS】穴埋め</p> <p>★学んだ内容のポイントをふりかえる</p>		

6. 本教材における高等学校公民科（公共、政治・経済）新学習指導要領との対応

平成 30 年 3 月告示 高等学校公民科学習指導要領「公共」

A 公共の扉

- (1) 公共的な空間を作る私たち (2) 公共的な空間における人間としての在り方生き方
(3) 公共的な空間における基本原理

B 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち

ア 次のような知識及び技能を身に付けること

(ウ) 職業選択、雇用と労働問題、財政および租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まり（国際社会における貧困や格差の問題を含む。）などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府が担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解すること。

【3 内容の取扱い (3) 内容の取扱いに当たっては、次の事項に配慮するものとする。】

カ 内容のBについては、次のとおり取り扱うものとする。

(ウ)・・・アの(ア)から(ウ)までのそれぞれの事項において主題を設定すること。その際、自立した主体となる個人を支える家族・家庭や地域などにあるコミュニティに着目して、世代間の協力、共同や、自助、共助及び公助などによる社会的基盤の強化などに関連付けたりするなどして、主題を追究したり解決したりできるようにすること。

(カ)アの(ウ)の・・・「財政および租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化」については関連させて取り扱い、国際比較の観点から、わが国の財政の現状や少子高齢社会など、現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて取り扱うこと。「金融の働き」については、金融とは経済主体間の資金の融通であること、金融を通じた経済活動の活性化についても触れること。

【学習指導要領解説】

また、例えば、社会保障制度の在り方をめぐっては高福祉・高負担か、低福祉・低負担かなどの観点から考えなければならないこと、社会保障制度を持続可能なものするには将来の世代の受益と負担を考慮しなければならないこと、生活上直面する様々なリスクに対しては、自分でそれに備えたり、対処したりするだけでなく、近隣住民などと互いに助け合うことや行政による対応が欠かせないことなどの観点から、貯蓄や民間保険などにも触れ、自助、共助及び公助が最も適切に組み合わせられるようにするにはどうすればよいか多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにすることが考えられる。

C 持続可能な社会づくりの主体と私たち

平成 30 年 3 月告示 高等学校公民科学習指導要領「政治・経済」

A 現代日本における政治・経済の諸課題

- (1) 現代日本の政治・経済
- (2) 現代日本における政治・経済の諸課題の探究

ア 少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、地域社会の自立と政府、多様な働き方・生き方を可能にする社会、・・・などについて、取り上げた課題の解決に向けて政治と経済を関連させて多面的・多角的に考察、構想し、よりよい社会の在り方についての自分の考えを説明、論述すること。

【学習指導要領解説】

- ・・・少子高齢社会における社会保障の充実・安定化について、自助、共助及び公助による社会保障の考え方を対照させ、真に豊かで持続可能な福祉社会の実現という観点から探究できるようにする。
- ・・・さらに、社会保険の役割とともに、自助としての医療保険、生命保険、私的年金保険などの民間保険の役割なども調べ、広い視野から持続可能な社会保障の在り方について自分の考えを説明、論述できるようにすることも考えられる。

B グローバル化する国際社会の諸課題

- (1) 現代の国際政治・経済
- (2) グローバル化する国際社会の諸課題の探究

□監修

大藪 千穂（岐阜大学教育学部 教授）

□編集協力（50 音順）

- 浅川 貴広（東京都立蒲田高等学校）
佐々木 啓真（東京都立調布北高等学校）
水野 雄人（東京都立芦花高等学校）
宮崎 三喜男（東京都立国際高等学校）

（所属は 2020 年 3 月時点）